

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	熊本県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	八代郡宮原町立宮原小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	18
児童数	49	48	44	51	53	46	0	291	

II 研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」をつける授業の創造
 豊かなかかわりの中で意欲的に学ぼうとする児童の育成をめざして

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年 全学年
 実施教科 算数科

算数科は児童の理解の状況に差がしやすい教科であり、本校は少人数指導やTT指導を取り入れながら学力を高める取り組みを行ってきた経過もあるので算数科を中心にした取り組みを進めることにした。また、低学年から高学年への積み重ねが重要であるし、児童や保護者の「確かな学力をつけてほしい」という願いも強く感じられることもあって全学年とも取り組みを行うことにした。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	
--------	--

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 「確かな学力」をつける授業の創造 豊かなかかわりの中で意欲的に学ぼうとする児童の育成をめざして ○ 研究の見通し 毎日の授業の中で、個に応じた豊かなかかわりができるような指導方法や指導体制を作り出し、児童が「聞きたい」「伝えたい」という思いを持てるような場の設定や授業の改善を行うことで、意欲的に学習する力や学習に向かう力が高まり、学習して得た力も確かなものになっていくであろう。 ○ 研究の内容・方法 本校では、まず「学力」を「学習をして得た力」「学習をする力」「学習に向かう力」としてとらえ、これらをどの子にも身につけることができるように取り組み、定着を図ることが「確かな学力」につながるものであり、「生きる力」にもつながっていくものであるととらえた。これらの力をつけるために算数科の授業研究を中心にしながら、本校の児童や学校の実態から次の二つの取り組みの方向を考えた。 ①子どもたちの意欲を引き出すことを大切にしながら自ら学ぶ姿勢や意
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

欲を身につけさせていく取り組み。
 ② 教師や子どもたち、そして子ども同志の豊かなかかわりを大切にしながら、個に応じた指導や集団としての学ぶ力を身につけさせていく取り組み。
 これらの研究を進めていくために①を中心に取り組む「意欲的な学び作り部」と②を中心に取り組む「豊かなかかわり作り部」の二つの研究部を作り研究をすすめてきた。

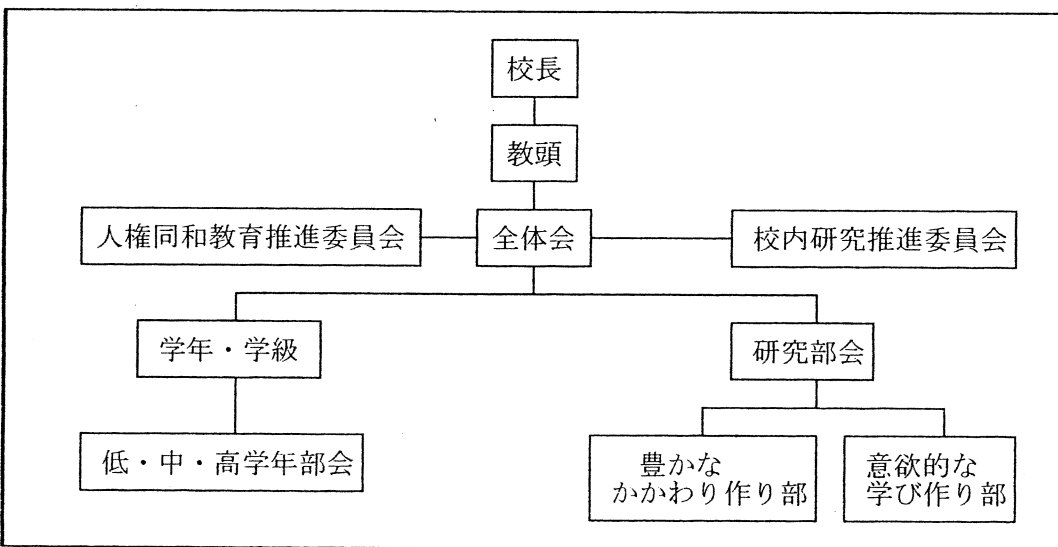
意欲的な学び作り部の取り組み
 ○単元全体や一時間一時間の授業の導入やまとめ、評価を工夫して意欲的な学びをどのように作りだしていくのか。
 ○授業についてのきまりや約束事をどうするのか。
 ○教材、教具等をどのように整理、工夫し活用していくのか。

豊かなかかわり作り部の取り組み
 ○子どもたち一人ひとりを見て、どんな子に視点を当てながらかかわりを作り出していくのか。
 ○学力が十分に定着していない子などを対象にして、個に応じた指導を授業の中や学校全体でどのように取り組むのか。
 ○授業の中で子どもたち同志がかかわり合うような手立てをどのように作り出していくのか。

平成16年度

- テーマ
 「確かな学力」をつける豊かなかかわりのある授業の創造
 意欲を引き出し、学ぶ喜びを味わうことのできる算数科の授業作りを中心にして
- 研究の見通し
 教師と児童、児童と児童の教え合い、学び合い、助け合いといった、様々な働きかけができる授業の体制や指導過程、雰囲気づくりがなされると、児童は学習に意欲をもって取り組むことができ、学ぶ喜びを感じられ、生き生きと学習できる授業が創造できるであろう。
- 研究の内容・方法
 前年度までに工夫して積み上げてきた、授業の導入やまとめの工夫、評価の工夫、個に応じた指導の工夫の方法を生かしながら、教師の子どもたちへの働きかけ方や、学習グループの指導、子どもたち同志のはたらきかけ方をどのようにしていくのかといったことをひとつの柱とし、また、学年・学級だけでなく学校全体で取り組める指導の体制作りや家庭、地域をも視野に入れた学力充実の体制作りをどのように作り出していくのかを二つ目の柱として研究を進めていきたいと考える。

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

年度当初研究を進めていく段階で各学年の実態を出し合ったが、「話を聞けない」「自分の考えや思いを伝えられない」「学力の個人差が大きい」といったことが多く出されていた。9～10月に実施した保護者や児童向けのアンケートの結果からでも、学校が楽しい、授業が分かりやすくなった、得意な教科で算数を挙げている子が多い、といった成果が出てきている。また、授業中、自分の意見を発表する、活動に意欲的に参加できる、集中して話が聞けるという児童が8割以上であった。実際、日常の授業では授業のめあてをしっかりと持たせて、ふりかえりカードなどを利用して授業の内容や学習活動についての自己評価をさせていることで効果をあげてきたようである。

毎日の算数の授業では、全学年で少人数の指導や専科教員なども入ったTT指導を行ってきているため理解の遅い子や作業等に時間のかかる子などへもきめ細かい手立てが以前よりとれるようになり、評価基準をはっきりさせた「ばっちりシート」の利用や「ふりかえりカード」の利用で一人ひとりの到達状況がよりつかみやすくなり個に応じた指導が進んできている。

さらに、学年毎に実施している「すくすくタイム」で担任や複数の職員で重点教材をふりかえり理解の遅れている個に対する手立てをとれるようになったので、担任まかせにならず学校全体として確かな学力の向上をめざしているという雰囲気もできてきている。特に気をつけておきたい子については個人カルテを残しておき、担任以外だれもが指導できる体制もとれるようにしているのも効果的である。

2. 今後の課題

まだまだ実践を積み重ねていく途中の段階であるが、今後や来年度に向けての課題としては次のようなことが考えられる

- 少人数、TTの指導では担任と担当者間の打ち合わせの時間の確保が必要であり、保護者や児童の理解もはかりながら更なる指導の工夫をしていくこと。
- 評価基準や「ばっちりシート」「チャレンジシート」の内容や利用のしかたを検討しただけ授業の中で個に応じた指導の充実がはかれるようにするとともに「すくすくタイム」や朝自習の時間を更に効果的に実施できるよう工夫をすること。
- 授業の前提条件でもある教材についての研究を学校全体として深めるとともに、日常の学校生活や家庭での学習、生活を充実させていく取り組みを保護者や地域とともにすすめていくこと。
- この間の取り組みを振り返りながら教職員自身の変容や課題を明らかにするとともに、ゆとりを持って児童に接したり研究をすすめていけるような研究体制や計画をつくること。
- 日常の様子やアンケートの分析等から、児童や保護者の実態および要求を正しくつかみこれからの指導にいかしていくこと。

IV 学力等把握のための学校としての取組

保護者・児童の実態や要求をつかむために定期的に（9月ごろ、3月ごろ）アンケートを実施している。児童のアンケートについては、「授業についてのもの」と、「子ども達同志のかかわりについてのもの」の二種類を実施している。

また、児童の学力の到達状況を知るために、2学期に「ゆうチャレンジ」という県独自のテストを実施し、2月には学力テストを行っている。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成16年11月に研究授業を公開する発表を予定している。
- 授業参観日での授業を通して保護者へ学校の取り組みを知らせ地域家庭の協力をえられるようにする。

- 地区協議会での報告をおこない成果の普及に努める。
○研究紀要をまとめ、近隣の学校や関係機関に配布して成果の普及に努める。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無